

雨上がりの受取箱

ルール 2人用の小さな試作

A4・片面印刷推奨・全5ページ。ヒントと解答は伏せておいてください。

ふたりの仕事

朝の配達前、雨でぬれた配達簿を二つに分けて乾かしています。仕分け係Aには「行き先の控え」、配達係Bには「封ろうの控え」があります。六通の封書を配る順番を取り戻し、最後に受取箱の4桁の確認番号を求めてください。

用意するもの

プレイヤーAの紙を1枚、プレイヤーBの紙を1枚。書き込み用の鉛筆があると便利ですが、必須ではありません。このルール、ヒント、解答は別に用意します。ヒントと解答は伏せておいてください。ハサミ、司会、インターネット、アプリは使いません。

はじめ方

1. AとBを決め、それぞれ自分の紙だけを読みます。相手の紙は見せたり交換したりしません。
2. 紙の内容は、どこをどれだけ声に出して伝えてもかまいません。書き込みは自分の紙へ。身振りや演技は不要です。
3. 六通は1番から6番までに1回ずつ入ります。同時配達、配達しない封書、記載のない行き先はありません。
4. すべての手がかりは正しいものです。すべての手がかりに合う順番を見つけてください。本文の文字数・改行・言葉の読み方などに隠し暗号はありません。外部知識も不要です。

順番の言葉

「前／後」は、配達する順番が早い／遅いことです。
「すぐ前」は、間にほかの封書がないことです。
「間にちょうど1通」は、例えば1番と3番の関係です。どちらが先かは、この表現だけでは決まりません。

ゴール

ふたりで次の両方に合意できたら解答を開きます。

- ・1番から6番までの行き先
- ・受取箱の4桁の確認番号

順番と番号の両方が一致すれば成功です。答え合わせのための司会は必要ありません。

困ったら、ヒントを1番から一つずつ読んでかまいません。未使用のヒントは手などで隠してください。急ぐ必要はありません。

試作の目標所要時間は10～15分です。実際の初見プレイ時間は未測定です。

雨上がりの受取箱

プレイヤーA 仕分け係

この紙は自分だけが見ます。内容はすべて口頭で伝えてかまいません。

行き先の控え

六通の封書には、それぞれ違う絵の封ろうが押されています。

製本室へ	……	鳥の封ろう
時計室へ	……	波の封ろう
写真室へ	……	葉の封ろう
仕立て室へ	……	雲の封ろう
パン工房へ	……	月の封ろう
花の部屋へ	……	鍵の封ろう

乾いたまま残った二つの記録

- ・写真室への封書は、花の部屋への封書のすぐ前に配る
- ・製本室への封書は、花の部屋への封書より後に配る

「より後」は「すぐ後」とは限りません。

行き先の控えの掲載順は、配達順とは無関係です。

受取箱の開け方

配達順をすべて決めたら、次の順で四通を選びます。

2番目 → 5番目 → 1番目 → 4番目

それぞれの封ろうに対応する「確認用の数字」を、選んだ順に並べます。

足し算はしません。四つの数字をそのまま並べたものが確認番号です。

確認用の数字は、配達係Bの控えにあります。

自分用のメモ

1番：行き先（ ）／封ろう（ ）

2番：行き先（ ）／封ろう（ ）

3番：行き先（ ）／封ろう（ ）

4番：行き先（ ）／封ろう（ ）

5番：行き先（ ）／封ろう（ ）

6番：行き先（ ）／封ろう（ ）

確認番号：

雨上がりの受取箱

プレイヤーB 配達係

この紙は自分だけが見ます。内容はすべて口頭で伝えてかまいません。

乾いたまま残った三つの記録

- ・雲の封ろうの封書は、葉の封ろうの封書より前に配る
- ・波の封ろうの封書は、月の封ろうの封書のすぐ前に配る
- ・鳥の封ろうの封書と、月の封ろうの封書の間には、ちょうど1通ある

三つ目の記録だけでは、鳥と月のどちらが先かは決まりません。

「より前」は「すぐ前」とは限りません。

封ろうは全部で「葉・月・波・鳥・鍵・雲」の六種類です。

封ろうに対応する確認用の数字

葉	……	3
月	……	4
波	……	7
鳥	……	2
鍵	……	5
雲	……	8

この一覧の掲載順は、配達順とは無関係です。

どの順に数字を読むかは、仕分け係Aの控えにあります。

自分用のメモ

- 1番：行き先（ ）／封ろう（ ）
- 2番：行き先（ ）／封ろう（ ）
- 3番：行き先（ ）／封ろう（ ）
- 4番：行き先（ ）／封ろう（ ）
- 5番：行き先（ ）／封ろう（ ）
- 6番：行き先（ ）／封ろう（ ）

確認番号：

雨上がりの受取箱

段階別ヒント

ネタバレ注意 必要になったら読みます

必要なものだけ、1番から順に読みます。まだ読まない部分は手などで隠してください。
ヒントを使っても成功です。

ヒント1：同じ六通を、違う呼び方で見ている

Aは行き先、Bは封ろうの絵で封書と呼んでいます。まず「この行き先は、この封ろう」という対応を声に出して共有しましょう。封ろうは暗号文字ではありません。対応表はAにあります。

ヒント2：四通だけを見る

両方の紙から、「雲は葉より前」「葉のすぐ後は鍵」「鍵より後に鳥」が分かります。つまり、雲 → 葉 → 鍵 → 鳥、という前後関係があります。この段階では、すべてが連続しているとは限りません。

ヒント3：鳥と月の二通り

鳥と月は、間に一通を挟みます。「鳥 → 何か → 月」と「月 → 何か → 鳥」の二通りを、両方考えましょう。前者なら、月のすぐ前が波なので「鳥 → 波 → 月」が連続します。これとヒント2の四通の前後関係をつなげるとどうなるでしょうか。

ヒント4：逆順ができない理由（解答に近いヒント）

「月 → 何か → 鳥」だったとします。波も月も鳥より前。雲・葉・鍵も鳥より前です。したがって鳥は6番です。すると月は4番、波は3番になります。残る雲・葉・鍵は1番・2番・5番に入れるしかありません。雲 → 葉 → 鍵の順を守り、さらに葉と鍵を隣り合わせにできますか。できないので、鳥と月の順は逆です。

雨上がりの受取箱

解答

ネタバレ注意 解答を含みます

ルールと両プレイヤーの紙だけで取り組む場合、この紙を先に読まないでください。

正解

配達順は次の一通りです。

- 1番：仕立て室（雲）
- 2番：写真室（葉）
- 3番：花の部屋（鍵）
- 4番：製本室（鳥）
- 5番：時計室（波）
- 6番：パン工房（月）

受取箱の確認番号は「3782」です。

なぜこの順になるのか

1. Aの対応表で行き先を封ろうに置き換えます。写真室＝葉、花の部屋＝鍵、製本室＝鳥です。Aの二つの記録から、葉のすぐ後が鍵で、鳥は鍵より後です。Bには雲が葉より前とあるので、四通の前後関係は「雲<葉<鍵<鳥」です。

「<」は前に配るという意味で、この時点で全部が連続するという意味ではありません。

2. 鳥と月の間には一通あります。順は二通りだけです。

場合A：鳥が月より前

月のすぐ前は波なので、間の一通は波です。「鳥・波・月」はこの順で連続します。前の関係と合わせると「雲<葉<鍵<鳥<波<月」です。六通すべてがここにあるため、空きを入れる余地はありません。よって「雲・葉・鍵・鳥・波・月」の順で確定します。

場合B：月が鳥より前

波は月のすぐ前なので、波と月は鳥より前です。雲・葉・鍵も鳥より前です。ほかの五通がすべて鳥より前になるので、鳥は6番でなければなりません。鳥と月の間がちょうど一通なら、月は4番、波は3番です。残る位置1番・2番・5番には、雲・葉・鍵がその順で入ります。すると葉は2番、鍵は5番で、葉が鍵のすぐ前という記録に反します。この場合は不可能です。

3. 場合Aだけが残るので、配達順は一意です。Aの対応表で行き先の名前に戻します。

4. Aの指定は「2番目 → 5番目 → 1番目 → 4番目」です。この順の封ろうは「葉 → 波 → 雲 → 鳥」。Bの数字表を読むと「3 → 7 → 8 → 2」なので「3782」です。足し算や文字への変換はありません。

全手がかりの照合

- ・写真室2番は、花の部屋3番のすぐ前
 - ・製本室4番は、花の部屋3番より後
 - ・雲1番は、葉2番より前
 - ・波5番は、月6番のすぐ前
 - ・鳥4番と月6番の間には、波の封書が一通
- すべてを同時に満たします。